

告 辞

桜の花びらが舞い、本格的な春の到来を感じさせます本日ここに、新たに佛教大学の大学院生となられます皆さん、ご入学おめでとうございます。高い向学心を持ち、高度な研究に挑まれようとする皆さんのご入学を、佛教大学関係者一同、心から歓迎いたします。

佛教大学は、1953年より<いつでも・どこでも・だれでも>を合い言葉に、高等教育の普及と拡充、および生涯学習時代における社会人に向けた多様な学修機会の提供に努めてまいりました。大学院に関しましては、人材教育の根底に仏教精神を据え、より専門的な知識を有する研究者の養成、高度専門職業人の養成、さらには新たな知見を学修して専門分野に関する知識をより深めようとする生涯学習の継続など、多様な目的を掲げ、1999年からその歩みを開始しました。そして、現在では4研究科7専攻において高度な専門教育と、それに基づく人材養成とを行っております。

ご承知の通り本学は、2012年に開学100周年を迎え、その際、未来への誓いをたてました。そこにおいても、本学の基本理念は仏教なかんづく法然の教えにあることは不変であります。

仏教思想の中、とくに人間形成にとって重要である「転識得智」を具体的な理解としたい。「転識得智」とは、識を転じて智とすることであり、「智慧と慈悲」がその内容であります。仏教的には極めて高尚な意味を持っていて理想の人生の実現（悟り）ということとなりますが、現実の生き方（世俗知）の中では智慧とは、己自身の在り方をしっかりと見つめ、自身が持ち合わせる知識（分別知）を人生のさまざまな場において、何をすべきかを判断することができ、実行してゆく力（生きる力）へと転換してゆくことと理解することができます。種々に得てきた知識を自らの生きる力へと展開させてゆける能力こそ智慧なのです。本学においては、この智慧を磨くこと、つまり自らに足りない知識を習得するとともに生きる力へと転じる人間力を育成することを目指しています。生きる力の発揮は人と人の間、すなわち人間社会という場でのことであります。自らも生かされてある場であるがゆえに、そこで自身を活かしてゆくには慈悲を精神とすることが肝要であります。慈は積極的に他に幸せを分かち与えることであり、悲は他から苦しみを取り去ることであると教えられています。「転識得智」は決して単なる精神論なのではありません。知識を智慧に転じるには、前向きの姿勢、合理的な思考の習慣、論理的な説明能力の習得そして何よりも実行力が必要とされます。

修士課程に進まれた皆さんにおきましては、広い視野に立って、精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力、あるいは高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養うことを目的として、また博士課程に進まれた皆さんにおきましては、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、高度に専門的な業務に従事するのに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的として、それぞれの研究に邁進していただきたいと思っております。私たちは、そのような皆さんの学修の支援に、しっかりと取り組んでいく所存であります。

おおきな社会状況の変化の中、自宅での孤独な学修を基本とする通信教育において、当初の意志を持ち続け、高度な研究を継続させていくには、相当の覚悟と強い意志が必要とされます。通信制大学院において、高度の専門的な能力を涵養するという目的を達成するために、様々な困難が伴うこともまた事実です。そのような中であって本学は、孤立しがちな皆さんの学修や研究を支援するために、指導教員の配置や学習相談の制度、SSTネットを用いての学修支援など様々な指導・支援体制を用意しております。こうした学修支援システムを有効に活用しながら、入学されたすべての皆さんが、それぞれの目的にそって着実に研究を進め、諦めることなく所期の目標を達成されますことを心から祈念し、告辞といたします。

ご入学おめでとうございます。

平成27年4月4日

佛教大学長 田中典彦